



## 事業活動の環境負荷低減

### 温室効果ガスの排出量削減

#### エネルギー起源のCO<sub>2</sub>排出量削減

海外工場を含む沖電気グループのエネルギー起源のCO<sub>2</sub>排出量(総量)は310千トンで、2004年度と比較して生産量が減少したため20%減少しました。主要生産拠点は、237千トンでやや減少しました。一方、主要生産拠点の部門別CO<sub>2</sub>排出量(原単位<sup>※1)</sup>)は、省エネ活動や生産性向上および売上高増の影響もあり、2004年度比で半導体製造部門では3%良化、情報・通信機器組立部門も5%良化しました。

※1) 原単位：CO<sub>2</sub>排出量/売上高

●CO<sub>2</sub>排出量推移(沖電気グループ主要生産拠点)



#### ◎半導体製造部門の省エネ

エネルギー使用量の大きな半導体製造部門では、毎年様々な省エネ対策を実施しています。2005年度は吸収冷凍機のターボ冷凍機への更新など高効率設備への切り替えを実施するとともに、フリークールの採用などの対策を実行しました。その結果、約5,200トンのCO<sub>2</sub>排出量を削減することができました。

#### ◎オフィスのサーバ統合

オフィスなどデスクワークが中心の職場では、パソコンやサーバなどの消費電力がCO<sub>2</sub>排出量に大きくかかわってきます。特に職場ごとに共有で使用されるサーバは、24時間稼動のため、常時電力を使用します。そこで、現在約3,400台ある沖電気グループ内サーバを半減することを目指し、サーバ統合による消費電力削減を開始しました。システムの統合・再編や部門別サーバ設置抑制などによって全社のサーバを整理統合し、台数を半減します。年間で消費電力750万キロワット時(CO<sub>2</sub>排出量3,300トン、電力料金13,000万円)が削減できる見通しです。



サーバ



## 事業活動の環境負荷低減

### ◎環境配慮型オフィスビル

埼玉県蕨市の事業所を拡張し、新たに情報通信融合ソリューションビジネスの戦略拠点として新棟を増築し、「沖電気システムセンタ」を竣工しました。IT技術を駆使してセキュリティと環境に配慮したオフィスを実現しました。増築した新棟は最新技術を利用して環境と省エネに配慮した設計を行ない、一般建物に比べてCO<sub>2</sub>排出量を約35%（950トン／年）低減しています。オフィス内の自然通風と夏季の夜間排熱をエコシャフトにより実現し、空調エネルギーを20%低減しています。また、システム開発を行うオフィスでは冬でも室温が高くなるため、外気を利用することで冬季の空調エネルギーを30%低減します。さらに、雨水をトイレの洗浄水として再利用することにより、使用する水の30%を節水するなど、環境に配慮したエネルギー負荷の少ない建物を実現しています。



沖電気システムセンタ

### PFC系ガス排出量削減

半導体製造工程は、地球温暖化に影響をもつパーフルオロカーボン（PFC系ガス<sup>\*1</sup>）を使用し、一部を大気中に排出しています。このため、世界半導体会議（WSC）では1995年度比で2010年度に、排出量を地球温暖化係数<sup>\*2</sup>換算で10%削減する目標を掲げています。沖電気グループは、より環境負荷の小さいガスへの変更や排気ガス処理装置の設置、あるいは工程改善により排出量の削減に取り組んでいます。2004年度以降は、生産量の増加などの要因により削減目標をオーバーしています。今後、分解装置を導入するなどの対策を実施します。

\*1) PFC系ガス：CF<sub>4</sub>、C<sub>2</sub>F<sub>6</sub>、C<sub>3</sub>F<sub>8</sub>、C<sub>4</sub>F<sub>8</sub>、CHF<sub>3</sub>、SF<sub>6</sub>、NF<sub>3</sub>。

\*2) 地球温暖化係数：地球温暖化に与える影響をCO<sub>2</sub>の量に換算した数値指標。

#### ●PFC系ガス排出量推移（地球温暖化係数換算）

